

対象は、寺内町、城下町、宿場町、門前町等、様々なカテゴリーの都市に及び、我が国の歴史的都市の様相が理解できるような表現と方法がとられているとの事である。今後、それらの報告を私たちも受け取ることができれば、その見事な結実を期待したい。

しかしながら、最後につけ加えさせていただければ、実際にこれまで行なわれてきた調査、報告の多くが、アカデミックな形式主義に把われており、いくつかの専門領域、たとえば建築史、都市計画、造園学、建築デザイン、社会学、経済学等々の個別な研究に終始、分科していると思われることである。

歴史的環境保存の問題も、いまだに文化財行政の枠から出ていない。今後、私たちは様々に分化してしまつた専門領域をのり超えて、私たちの築きあげてきた文化遺産、共有財産を活用しながら、日本人の住居、都市の再生、生産組織、町づくりへの模索、試行錯誤を繰り返していく必要があると思われる。町並み研究もそのためのひとつの方法なのだと思うのである。

(街なみ研究会調査研究グループ)

街なみ研究会 紹介

本号の座談会「街並みを考える」にご出席の方々には「街なみ研究会」の委員・幹事をなさっている方々です。「街なみ研究会」をご紹介します。なお、この研究会には、住宅生産振興財団が、街並みに関する調査研究を委託しています。

研究の目的

幅広い街なみづくりの議論を踏まえながら、現在の我が国に求められる住宅地景観形成手法をソフト、ハードの両面にわたって探ることを本研究会の最終目的とする。

研究の内容

- 第一段階——我が国における街なみ研究論の系譜。戦後我が国における街なみ研究（景観論）に関する各種の研究をとりあげ、その内容、主要視点を分析、研究成果を評価する。
- 第二段階——諸外国における街なみ研究論の系譜
- 第三段階——街なみのフィールドサーベイ（歴史的なもの、ニュータウン各種）
- 第四段階——住宅地景観形成手法の検討

研究の方法

- 資料収集——大学研究機関、日本建築学会、建築ジャーナリズム、地方自治体委託研究、日本住宅公団委託研究
- 調査分析方法——研究領域の類型化（内容の整理。研究の視点分析。研究の成果評価分析。住宅地景観形成手法に関する情報の整理。

研究会の構成

討論グループと調査研究グループで構成。グループメンバーは次の通り。カッコ内は専門科目。
討論グループ

- 養原 敬（建築・都市計画）建設省都市計画課 鎌田宣夫（住宅計画）建築研究所住宅計画研究室 関根伸夫（環境美術）環境美術研究所 国吉直行（都市デザイン）横浜市企画調整局企画課
- 高橋 茂（建築・都市計画）住宅生産振興財団

調査研究グループ

- 藤本昌也（建築・都市設計）現代計画研究所 松井郁夫（建築・都市設計）現代計画研究所 陣内秀信（建築史）東京大学建築学科、建築史研究所 板倉文雄（建築・環境計画）法政大学建築学科、建築計画研究所 齊木崇人（環境計画・集落研究）筑波大学大学院環境科学研究科、環境計画研究室